

## 令和元年度(2019年度)野生鳥獣による農作物被害調査結果について

### 1 調査方法

本調査は、「鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律(平成19年法律第134号)」に基づき、国の調査依頼を受けて実施。

各市町村が、被害を受けた作物の被害額や鳥獣の種類等について、農業共済組合への照会や被害農家からの報告、JA等の関係団体への聞き取り等により調査した結果を、県が取りまとめて国に報告するもの。

### 2 調査結果の概要

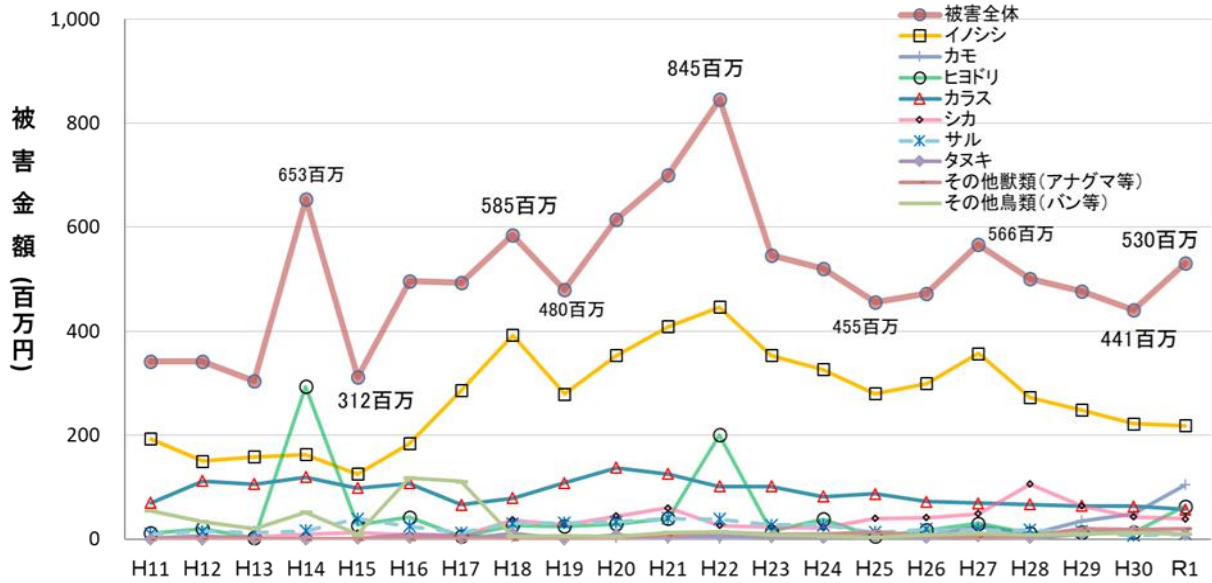
- 本県の令和元年度における野生鳥獣による農作物被害額は、前年度より**8千9百万円増加(前年度比+20%)**し、**5億3千万円**となっている。平成22年度をピークに、被害額は減少傾向にあるが、平成27年度以降初めて増加し、依然高い水準で推移している。
- 鳥獣種別被害額では、イノシシによる被害が全体の41%を占めており、次いでカモが20%、ヒヨドリが12%となっている。前年度より、**イノシシ、カラス、シカの被害額は減少**したが、**カモ、ヒヨドリ、サルは増加**している。
- 作物別被害額では、野菜が47%で最も高く、次いで果樹が23%、米が19%となっている。
- 「えづけSTOP!」を基本とした集落ぐるみでの取り組みの拡大や侵入防止柵の設置、捕獲により、イノシシやシカの被害は減少傾向にある。一方で、取り組みが難しいカモ等の鳥類やサル等中型獣類による被害が一部の地域で大きくなっている。
- 地域別の被害は、**上益城地域(前年度比▲21%)、球磨地域(▲13%)、菊池地域(▲8%)**等で減少し、**八代地域(+78%)、阿蘇地域(+29%)、玉名地域(+18%)**等で増加した。これを鳥獣種別にみると、上益城・球磨地域ではイノシシ、菊池地域ではシカ、サル、タヌキによる被害額が減少している。一方で、八代地域ではカモ、ヒヨドリ、阿蘇地域ではイノシシ、サル、玉名地域ではヒヨドリによる被害額が増加している。

### 令和元年度農作物被害額

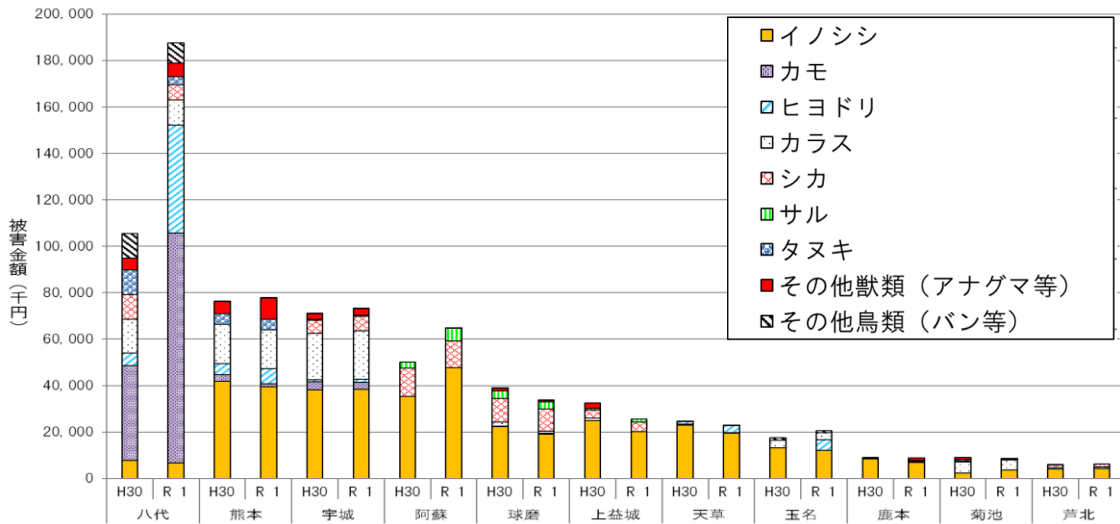
青文字:減少、赤文字:増加

項目	被害額	前年度からの増減額	
		対前年度増減率	前年度からの増減額
<b>全 体</b>	5億2,965万円	20%	約 8千 9百万円増加
<b>イノシシ</b>	2億1,765万円	▲ 2%	約 4.1百万円減少
<b>カモ</b>	1億 367万円	118%	約 5千 6百万円増加
<b>ヒヨドリ</b>	6,320万円	401%	約 5千 1百万円増加
<b>カラス</b>	5,705万円	▲ 9%	約 5.8百万円減少
<b>シカ</b>	3,929万円	▲ 9%	約 4.1百万円減少
<b>サル</b>	1,000万円	41%	約 2.9百万円増加
<b>タヌキ</b>	899万円	▲43%	約 6.7百万円減少
その他獣類(アナグマ等)	1,968万円	12%	約 2.1百万円増加
その他鳥類(バン等)	1,013万円	▲18%	約 2.2百万円減少

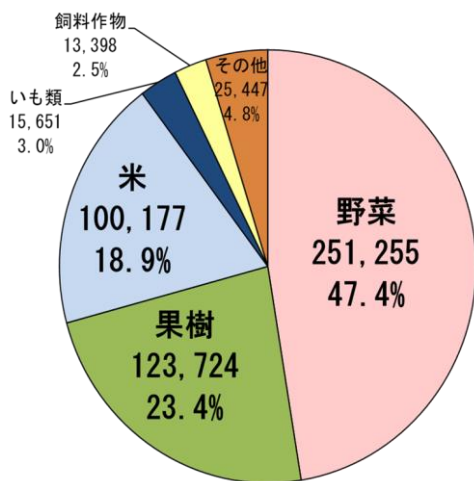
### 被害額の推移



### 地域別の被害額



### 作物別の被害額 (千円)



### 鳥獣種別の被害額 (千円)

